サポ・カレ通信（12月号）

＜12月配信の講義・ゼミ一覧＞

WEB講義配信　毎週月曜日の配信メールのリンクから受講できます！

15分で学ぶ！障がい者支援の基礎		見たらチェック
12月の講義：感染症予防		
11月30日(月)	「インフルエンザの対応」	□
12月 7日(月)	「誤解されやすい感染症と人権配慮」	□
12月14日(月)	「児童分野で判断に迷いやすい感染症」	□
＜通年企画＞シリーズで学ぶ！虐待防止の視点と取り組み		
12月21日(月)	「身体拘束の適正化？」	□
講座のポイント　今月の配信講座 / 通年企画	●12月のWEB講義は、11月から続く「感染症予防」についてです。11月は全員が知っておくべき標準予防策から、代表的な感染症ノロウィルス、インフルエンザへの対応について学びました。続く12月では感染者の権利や児童への対応について学びを進めてまいります。今すぐ使える知識です。是非ご覧ください。 ●12月の「シリーズで学ぶ！虐待防止の視点と取り組み」は、「身体拘束」。「見守りの限界」「仕方がない」という理由で、ついつい継続してしまいがちな身体拘束。しかしこれは、虐待にもつながる行為。どうすれば安全と暮らしの両立ができるのか、「固定化」「常習化」のループから抜け出せるのかを考えます。	

※月曜日が祝日の場合は翌日の配信になります。

Liveゼミ　オンライン会議システムを使った双方向によるゼミナールです

Liveゼミ 特別講義① 講師：藤堂 貴代美 氏 （キャリアコンサルタント ・公認心理師 ・産業カウンセラー）	中堅職員スキルアップ講座2026　第2期 「職場内のコミュニケーションをより良くするヒント」 **第2回：信頼関係を築くために** 12月10日（木）14：00～15：30 中堅職員のスキルアップを目指した3回連続のLiveゼミです。 参加者は、3回を通しての受講を前提に、別途募集させていただいております。
Liveゼミ 特別講義② 講師：山内　哲也　氏 （社会福祉法人武蔵野会 本部 事業企画室長）	**2026年度 新人職員Liveゼミ（第3回）** **12月16日（水）13：30～15：00** 新人職員のための年間4回の連続ゼミの第3回です。 参加者は、年間を通しての受講を前提に、別途募集させていただいております。 詳細は、サポーターズカレッジ事務局までお問い合わせください。

※新人職員Liveゼミの参加者は「シリーズで学ぶ！新人職員のための基礎知識」（STEP7～9）を予め、ご視聴いただくようお願いいたします。

※どちらも1週間限定で、アーカイブ公開もいたします。視聴を希望される方は、サポーターズカレッジHPからお申し込みください。

サポ・カレ　カレンダー

2026年12月

日	月	火	水	木	金	土
11月29日	11月30日	12月1日	2	3	4	5
	15分で学ぶ！ 障がい者支援の基礎 「インフルエンザ の対応」 配信					
6	7	8	9	10	11	12
	15分で学ぶ！ 障がい者支援の基礎 「誤解されやすい感染 症と人権配慮」 配信		サポカレ通信 1月号 配信	【Liveゼミ】 中堅職員スキル アップ講座2026 第2期（第2回）		
13	14	15	16	17	18	19
	15分で学ぶ！ 障がい者支援の基礎 「児童分野で判断に迷 いやすい感染症」 配信		【Liveゼミ】 2026年度　新人 職員Liveゼミ （第3回）			
20	21	22	23	24	25	26
	シリーズで学ぶ！ 虐待防止の視点と 取り組み③： 身体拘束の適正化？ 配信					
27	28	29	30	31	1月1日	2
					元旦	

先取り告知（予定）

●2027年1月のWEB講義は「防災スペシャル講座」です

2027年1月は、「BCPを“使える計画”にする実践訓練」と題するスペシャル講座を配信します。施設ごとに作られたBCPを具体的な災害イメージをもとに実践的に検証し、より精度の高いものに仕上げて行くための講座です。是非ご覧いただき、一緒に訓練しましょう。

サポカレのご利用方法はこちらを参照！

■サポカレ・ホームワーク■

サポーターズ・カレッジでは、現在、毎月1回、事例をもとにした講義を配信しています。今月のテーマは「見て見ぬふり？」です。

夕方の食堂。片づけの時間で、支援員Aは仕事に追われていた。利用者Hさんは食後に何度か席を離れ、支援員Bが、他利用者の対応をしながらHさんに「Hさん、座ってください」「今はだめです」と繰り返していたが、Hさんは落ち着かない。次に立ち上がった瞬間、その職員は、Hさんの肩に手をかけ、やや強めに椅子へ戻した。Hさんは一瞬顔をしかめたが、そのまま座った。あとで更衣介助の際、支援員Cが肩のあたりにうっすら赤みがあるのに気づき、「さっきかな」と思ったが、支援員Bが「少し押さえただけ」と言ったため、申し送りでも話題にもならず、「食後、落ち着かず、声かけで着席を促した」とだけ共有。赤みのことも、やや強く身体に触れたことも記録されなかった。支援員Aは、周囲の職員は、どう思っているのか気にはなったが、誰も深く触れなかった。翌朝その赤みが、青黒く変色しているのを見た職員Cが、改めて朝礼で報告。支援員Aは、また「たいしたことではない」と流されていくのかな…と、以前に比べこうしたことを気にしなくなったなと思いながら、今日の予定に意識を向けた。

さてこの事例、皆様どうお考えになりますか？配信は11月24日を予定しています。